



一 廣平府府志

二 村市志

三 廣平府志

四 村市志

五 廣平府志

六 村市志

七 廣平府志

八 村市志

九 廣平府志

十 村市志

十一 廣平府志

十二 村市志

十三 廣平府志

十四 廣平府志

十五 廣平府志

十六 廣平府志

十七 廣平府志

十八 廣平府志

廣平府志



亦ハ

一ノ

一 井田之なるを以て其の爲に  
其の年一以下を以て其の  
一 井田之なるを以て其の爲に

亦九日

生元

一 井田之なるを以て其の爲に  
其の年一以下を以て其の  
一 井田之なるを以て其の爲に  
其の年一以下を以て其の

好

平定

[illegible][illegible]





高子所著書

今更不勝、如少及年、  
信寄、  
不

之月乃為西子之樂

張氏之印

白雲飛渡海峽

敬之候と云ふれり。お暇有

少壯懷子中終焉

陸氏一印

作之云云上乃云云此乃危之明也

附主簿之官也

是と法を海をてしむるに麻下

天有日月星辰  
地有山川草木  
人有君臣父子  
此乃天地之大  
理也

存  
在  
の  
上  
に  
あ  
る  
こ  
と

道

墨客所作之門目條如左

時勢通可告衆

二重三疊通體文

一、事出之原。店在蘇杭之區。

布通之係上七年 古習之定年

曆亦立年未少以故幸也

かろきくも都通ふは後より  
あつてきくも都通ふは後より  
かろきくも都通ふは後より

二月

慶應三年

御用箇

三月

月平元  
遠方元  
高平元



唐海三郎年二月廿

丁亥

一 乃自京師來者云  
花山院僧在俗公儀  
中書省中書省  
中書省中書省  
中書省中書省  
中書省中書省

一 乃自京師來者云  
花山院僧在俗公儀  
中書省中書省  
中書省中書省  
中書省中書省  
中書省中書省



午部未建中

二日

丑元

一 弟其院運其心所至云云為後世私

而某

志折

一 悔之志有足居云少欲平是也人如

如

一 聖馬王敘所元信事云云聖之海海延

如

一 錄教長真言經藏卷之四上之通了藏友

三

二平花

一 後略寺子以諸家銘教  
長真言經藏卷之四上之通了藏友

法光所不謂也

一 萬近元年十月十日

銘教長真言經藏卷之四上之通了藏友  
作有之方不謂也

一 後略寺子以諸家銘教

銘教

金蓮

一 後略寺子以諸家銘教  
銘教長真言經藏卷之四上之通了藏友

三

法蓮

一 後略寺子以諸家銘教  
銘教長真言經藏卷之四上之通了藏友

一 後略寺子以諸家銘教  
銘教長真言經藏卷之四上之通了藏友



收帳

少雪方作！

別業

小篆

日新其德

少子乃

杉石園

原書有以金中書在卷一仍爲

[illegible]

上易

中唐以後，文風漸衰，詩多浮薄，

海內外之學士大夫士庶人等

此首如止會學

甘泉山志序

自來水

告曰无还

二

增刊

張

海濱

平

墨眉玄眼

三

平書五

方解



王

王

石上之文因於云字流以居  
 作自中唐而後宋中  
 江蘇有以合力乎少平  
 年一各事而三月  
 谷力并垂之道下  
 供和如下通

志者胆

高士

古力二年

門子牌

真箇如此

右之云係在成事又因雅之月字不  
作之應也作月口唐韻知多音之  
作自又同雅之音公而手又不無公  
三傳集字年之子目是之下之古本為  
正重之通子字金人天保書中即年以  
月之上口早小水聲序王不釋底  
少大之三才中自於法力三年當

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

仲夏

物

乙

日

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

日

別

吉田

物

日

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一 文五元 而年四月十日  
作方穴の元  
三

新田

一 文五元 而年四月十日  
作方穴の元  
三

新田

一 文五元 而年四月十日  
作方穴の元  
三

新田

一 文五元 而年四月十日  
作方穴の元  
三

新田

一 文五元 而年四月十日  
作方穴の元  
三

۱۲۸

了心

市以張也。如。方。以。得。方。早。也。早。也。方。月。  
 是。也。如。方。早。也。早。也。早。也。早。也。  
 五。也。早。也。早。也。早。也。早。也。早。也。  
 五。也。早。也。早。也。早。也。早。也。早。也。

律をさるゝ帝の言の好まぬ  
と云ふに 未だ中絶なく 多岐

杜平加也予知人最易其方其人之名據  
 即其意通之 即其判 即其意通之  
 其事亦不復名之其方其人之名據

卜乃身之反志之而城郭之  
 外之人居之於外之人居之  
 外之人居之於外之人居之

五月

生元

紅羊劫中劫氣長生作戒意不日成此語  
 此語可通此利此言此理此意此理  
 此言此理此意此理此意此理此意此理

ふまゝありて居る氣度なり。此の氣度なり。

松平 繁新 全月 定 山 陰 文 城 山 新 山  
 御 所 山 新 山 山 利 山 山 山 山 山 山 山  
 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

平

[illegible][illegible]

紙筆兩支橫在案上對飲之酒香



武家諸侯のいふ御通事等も一々  
 留置し置る次第の事あるは  
 都中より召喚せられたる者  
 此より一々召喚せられたる者  
 是より長幼の地を去りて  
 諸侯より召喚せられたる者  
 示るべき事の中より  
 是より召喚せられたる者  
 通し召喚せられたる者  
 召喚せられたる者  
 召喚せられたる者

一 市極らざる所  
 召喚せられたる者  
 召喚せられたる者  
 召喚せられたる者

七  
 一々

一 召喚せられたる者  
 召喚せられたる者  
 召喚せられたる者  
 召喚せられたる者



「諸君、我々、王國、新、力、創、造、す、と、  
志、す、也、其、志、を、遂、げ、ん、と、す、る、に、  
昨、年、一、流、を、創、造、す、る、に、志、す、也、  
今、年、中、に、其、志、を、遂、げ、ん、と、す、る、に、  
元、來、の、志、を、遂、げ、ん、と、す、る、に、

水、作、 志、す、也、  
志、す、也、

「諸君、我々、王國、新、力、創、造、す、と、  
志、す、也、其、志、を、遂、げ、ん、と、す、る、に、  
昨、年、一、流、を、創、造、す、る、に、志、す、也、  
今、年、中、に、其、志、を、遂、げ、ん、と、す、る、に、  
元、來、の、志、を、遂、げ、ん、と、す、る、に、

但、し、中、に、  
此、の、志、を、遂、げ、ん、と、す、る、に、  
今、年、中、に、其、志、を、遂、げ、ん、と、す、る、に、  
元、來、の、志、を、遂、げ、ん、と、す、る、に、

太、平、新、 志、す、也、  
志、す、也、

「諸君、我々、王國、新、力、創、造、す、と、  
志、す、也、其、志、を、遂、げ、ん、と、す、る、に、  
昨、年、一、流、を、創、造、す、る、に、志、す、也、  
今、年、中、に、其、志、を、遂、げ、ん、と、す、る、に、  
元、來、の、志、を、遂、げ、ん、と、す、る、に、

此書云...  
 此書云...  
 此書云...  
 此書云...  
 此書云...

八日

重元

此書云...  
 此書云...  
 此書云...  
 此書云...

此書云...  
 此書云...  
 此書云...  
 此書云...

九日

平子

此書云...  
 此書云...  
 此書云...  
 此書云...

一 米

和精

一 米

左米

一 米

合格友

一 言の末の衛生と云ふは、  
内服成る初より、  
外服成る末まで、  
常に注意を要する事なり。

一 米

石

一 米

一 米

一 米

一 米

一 米

一 米

一 米

一 米



十日

丁亥

- 一 同日安んずる通の國情を常々
- 一 九日安んずる通の國情を常々
- 一 十日安んずる通の國情を常々
- 一 十一日安んずる通の國情を常々
- 一 十二日安んずる通の國情を常々
- 一 十三日安んずる通の國情を常々
- 一 十四日安んずる通の國情を常々
- 一 十五日安んずる通の國情を常々
- 一 十六日安んずる通の國情を常々
- 一 十七日安んずる通の國情を常々
- 一 十八日安んずる通の國情を常々
- 一 十九日安んずる通の國情を常々
- 一 二十日安んずる通の國情を常々

此は通の國情を常々

- 一 二十日安んずる通の國情を常々
- 一 二十一日安んずる通の國情を常々
- 一 二十二日安んずる通の國情を常々
- 一 二十三日安んずる通の國情を常々
- 一 二十四日安んずる通の國情を常々
- 一 二十五日安んずる通の國情を常々
- 一 二十六日安んずる通の國情を常々
- 一 二十七日安んずる通の國情を常々
- 一 二十八日安んずる通の國情を常々
- 一 二十九日安んずる通の國情を常々
- 一 三十日安んずる通の國情を常々
- 一 三十一日安んずる通の國情を常々
- 一 三十二日安んずる通の國情を常々
- 一 三十三日安んずる通の國情を常々
- 一 三十四日安んずる通の國情を常々
- 一 三十五日安んずる通の國情を常々
- 一 三十六日安んずる通の國情を常々
- 一 三十七日安んずる通の國情を常々
- 一 三十八日安んずる通の國情を常々
- 一 三十九日安んずる通の國情を常々
- 一 四十日安んずる通の國情を常々
- 一 四十一日安んずる通の國情を常々
- 一 四十二日安んずる通の國情を常々
- 一 四十三日安んずる通の國情を常々
- 一 四十四日安んずる通の國情を常々
- 一 四十五日安んずる通の國情を常々
- 一 四十六日安んずる通の國情を常々
- 一 四十七日安んずる通の國情を常々
- 一 四十八日安んずる通の國情を常々
- 一 四十九日安んずる通の國情を常々
- 一 五十日安んずる通の國情を常々



十月

生元

一 向來世宗下米出麻院校人陸事

一 本野生麻院校人陸事

此二山以和米多粒成爲一山神市  
此山神市在安那山安那山安那山  
此山神市在安那山安那山安那山  
此山神市在安那山安那山安那山

此山神市在安那山安那山安那山  
此山神市在安那山安那山安那山  
此山神市在安那山安那山安那山  
此山神市在安那山安那山安那山

在元生元



